

2023年度の事業報告書
2023年4月1日から2024年3月31日まで

特定非営利活動法人 多様な学びプロジェクト

1 事業の成果

【当事者実態把握、行政連携ベストプラクティス調査研究活動】

- ・政策提言に必要な、不登校当事者の実態とニーズを把握する調査「不登校のこどもの育ちと学びを支える当事者実態ニーズ全国調査」を不登校や五月雨登校のこども、不登校や五月雨登校の子を育てる保護者や元保護者、不登校経験者の3つに分けて10月6日から12月31日の期間に行った。実施は民間調査専門機関と文科省や政府機関の委員や文科省調査の受託経験のある大学研究者と協力して行った。
- ・調査の報告会を兼ねたシンポジウム「不登校当事者の実態とニーズを把握し官民共創でつくる効果的な施策とは」を開催し、文科省の不登校施策担当者や自治体行政職員にも基調講演やパネルディスカッションに登壇いただいた。不登校経験者や保護者、居場所運営者と行政と共にパネルディスカッションを行い、それぞれの立場からの意見を交換した。
- ・1月27日(土)放映のNHKスペシャルに代表理事の生駒が出演し、当事者実態ニーズ調査の内容が取り上げられた。そのほか朝日新聞、東京新聞など全国紙や各種ウェブメディアで取り上げられた他、子ども若者の権利と政策シリーズの第3巻「子ども若者の権利と子どもの育ち」(明石書店)やエイデル研究所『季刊教育法』など学術よりの書籍、一般書籍でも掲載予定。
- ・多様な学び国会議連に2023年6月と11月の2回参加し、11月の回に調査の速報を報告した。議連に参加した議員によって数日後に調査報告の速報が文科大臣への質問として取り上げられた。
- ・成果物の報告書はPDF化し、ホームページでも掲載した他、メーリングリストで関係者に送付を行った。自治体教育委員会からの問い合わせもあった。

【いつでもどこからでも学べる研修サイトの設計とオンライン講座の開催、居場所スタッフに特化した伴走支援研修プログラムの開発】

- ・「とまり木オンラインサロン」で2020年4月から開催してきたオンライン講座のアーカイブ動画がいつでも視聴でき、リアルタイムのオンラインイベントに参加できる研修サイトの設計と新設を外部委託会社と共に行った。
- ・NHK「ドキュメント72時間」等を手がける映像ディレクターの石谷岳寛氏を講師として動画編集研修講座を8月に行い、その後も平均月に1回、石谷氏をアドバイザーとしてフォローアップ内部研修を行い、編集技術を身に着けた内部スタッフを14名育成した。研修動画をわかりやすく2分程度のショートバージョンにした65本を完成させた。
- ・アーカイブ動画と新規講座のデータを整理し、合計81本のデータのカテゴリ整理を完了した。
- ・団体のニーズを測るためにとまり木に登録されている約500団体向けにユーザーニーズを測るアンケートを8月～9月に1回実施した。
- ・「とまり木ポータルサイト」に登録している団体へ向けて研修講座広報メールマガジン年12回発行した。
- ・伴走支援型研修プログラム開発においては、試験的運用を4か所のフリースクールで行い、短期的成果においてスタッフ間の共通理解や子どもへの対応においてプラスの効果測定をした他、より有効な居場所支援に向けた仮説(団体が抱えるボトルネック)が確認された。
- ・事前のヒアリングと伴走を通じ、受益者によりよい居場所を提供するためのボトルネックが、「支援者の知識・スキル不足」という従来の仮説のみならず、「団体内の組織運営マネジメント体制の強さ」とスタッフ間コミュニケーションというより根っこに近い仮説が掘り起こされ、解決に向けたロジックが整理された。
- ・4団体での試験的実行により、団体の運営者の特性や組織成熟具合に合わせた有効な介入方法が、伴走支援者間で定期的に議論・共有・類型化され、介入プログラム自体が高度化された。

【地域ネットワークリーダー交流勉強会事業】

- ・これまで個々の活動でしかなかった地域ネットワークリーダー同士を集め、活動交流と勉強会を行い、各々のネットワークの課題を明らかにし、それぞれのケーススタディについて講師に答えていただいた。ネットワーク内の課題解決や、行政連携と当事者ニーズに沿った地域づくりに寄与できた。
- ・地域ネットワークのリーダー交流会と勉強会を全8回行い、勉強会は行政連携の手法について講師をよんで学んだ。文科省との意見交換会を全5回行った。

【基盤強化診断及び基盤強化】

- ・パナソニックの助成金を得て、昨年度に引き続き2023年4月から8月まで組織診断を行った。また継続助成を受け、2024年1月から3月までは組織基盤強化に取り組んだ。
- ・普段は全員がリモートワークの活動のため、メンバーの価値観やライフビジョンに対する相互理解が不足していることから、助成1年目の組織診断の機会を通して相互理解のベースを整えた。
- ・基盤強化では、①団体のビジョン・ミッション・コアバリューやパーパス・クレド等の練り直し・共有化と各メンバーの参加・協力の基盤となるマネジメント・ファンドレイジングの構築、②目標①を踏まえたウェブサイトや広報媒体の改訂、③労務・法務・知財等の専門家の助言・サポートによるガバナンス体制整備の3つの目標達成に向け取り組んだ。2024年度も継続して行っていく。

【川崎居場所マップ及び居場所事業】

- ・川崎市内の施設等へのこども文化センター、市民館、区役所、児童相談所、総合教育センター、ゆうゆう広場及び小中学校等、及び当団体の「街のとまり木」へ登録している団体の合計309ヶ所へ川崎地域マップ及びポスターを配付した。
- ・不登校の子どもと保護者を対象にした居場所のモデル事業として「とまり木Cafe」を市内4ヶ所で計18回実施した。対象者は6～18歳の子どもとその保護者で、学校に通っていない、学校が合わないと感じる、学校以外の学び場を探している親子など。高津区では6回の開催のうち4回で不登校の子を持つ保護者を対象としたピアカウンセリングの場として「保護者Time」を同時開催しました。
- ・本事業がモデル事業となり、保護者への情報提供の紙のマップとサイトが作成されることになった。またその内容についても当団体も関わることとなった。一方で、特にこども文化センターにおいて居場所の受け入れが充分でないことがアンケートから伺えた。他地域展開については、本団体が今年度国(文科省)への政策提言によって、7月31日に文科省より保護者への情報提供の必要性の通知が出たことにより、各地に広がりを見せており、一定の成果を挙げられたと考える。
- ・居場所事業においては次年度については川崎市では予算化されていないが、受益者ニーズに添ったものであったことは利用者の数や声から伺えた。国への施策化に向け本事業の結果を提言として活かしていきたい。

【子ども向けオンライン事業】

- ・こども哲学カフェでは、毎月一回テレビ会議システムzoomを利用して双方向型の非認知能力を育むオンライン授業を行い、哲学対話を通して参加者それぞれの考え方・物事の捉え方の違いを体感し、多様性への寛容さや自己表現、相互理解などを学んだ。
- ・フリーバードキッズでは、通年の会員専用slackワークスペースにて、家庭メインで育てている子ども達自身が、家庭で行っている遊びや学びを報告、交流を行った。ファシリテーターやコメントサポーターが見守り、交流が盛んになるようにリアクションボタン等で応答した。月1回のズーム・ミーティングでは、リアルタイムの会話を楽しんだ。「好き」でつながることで、ナチュラルな自己肯定感と「一人ではない」という安心感が育まれた。加えて、ファシリテーターのミーティング(1回)および保護者会(3回)を行うことで、子どもの学びへの適切な関わり方を学びあった。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

| 事業名(定款に記載した事業) | 具体的な事業内容 | (A)当該事業の実施日時 | (B)当該事業の実施場所 | (C)従事者の人数 | (D)受益対象者の範囲 | (E)人数 |
|---|----------|--------------|--------------|-----------|-------------|-------|
| 事業名(定款に記載した事業) ① 地域の居場所づくり事業 ア とまり木ポータルサイト 事業費の金額【 2,179 】千円 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--|---|--|---|----|---|---|
| とまり木ポータルサイト | 「地域の居場所」がより検索しやすくなるホームページの新設、運営 | 通年 | オンライン | 4人 | ・不登校家庭 ・不登校支援者 | 街のとまり木登録数 523件(2024年3月末時点) |
| 川崎とまり木マップ・居場所事業 | ①川崎地域マップ及びポスターを配付 ②2カ所のこども文化センターで居場所のモデル事業実施 | 2023年9月～ 2024年3月 | ①川崎市内の公共施設及び当団体の「街のとまり木」へ登録している団体の合計309ヶ所 ②小田こども文化センター、藤崎こども文化センター | 3人 | ・不登校の子ども、保護者 | 川崎地域マップ発行部数 4500部 |
| 事業名(定款に記載した事業) ① 地域の居場所づくり事業 イ 調査政策提言・地域ネットワーク事業 事業費の金額【 10,917 】千円 | | | | | | |
| 調査政策提言活動 | 政策提言に必要な、不登校当事者の実態とニーズを把握する調査と報告会 | 調査: 10月6日から 12月31日 報告会 シンポジウム: 1月11日 | オンライン。シンポジウム会場は都内 | 5名 | 不登校の子ども、保護者、居場所運営者、自治体行政(不登校施策担当者)、地域ネットワークリーダー | 保護者回答数:1953名 元不登校回答数:400名 子ども回答数:476名 計 2829名 シンポジウム申し込み人数: 731名 |
| 地域ネットワーク事業 | ネットワーク内の課題解決や、行政連携と当事者ニーズに沿った地域づくり | 地域ネットワーク交流会: 全5回 (2023/4/27、 9/19、 11/14、 12/1、 2024/2/8) 行政連携講座: 全3回 (2023/6/28、 7/14、 8/10) | オンライン | 4名 | フリースクールや不登校親の会運営者かつ地域ネットワークリーダー及び地域ネットワークリーダーに育ちそうな地域の核となるフリースクールや不登校親の会運営者 | 述べ120人 |

| | | | | | | |
|--|---|--|-------|-----|---|---|
| | | 計8回 開催 | | | | |
| とまり木オンラインサイト制作 | いつでもどこからでも学べる研修サイトの設計と新設 | 2023年4月から2024年3月 | オンライン | 17人 | 不登校の子を育てる保護者、居場所運営者、自治体行政(不登校施策担当者)、地域ネットワークリーダー、不登校経験のある若者 | 動画編集に関わった受益者兼スタッフは14人。サイト制作後の受益者人数は次年度予定。 |
| <p>事業名(定款に記載した事業) ② ワークショップの運営・開催事業 ア 全国オンライン研修講座とオンライン保護者と支援者ピアカウンセリング(以下「とまり木オンラインサロン」)及び伴走支援事業 事業費の金額【 7,164 】千円</p> | | | | | | |
| とまり木オンラインサロン運営 | 専門講師による、子どもへの対応の仕方、居場所運営のノウハウ、不登校家庭の取り組み、行政連携の手法、ファンドレイズの仕方などの知識の注入と、保護者や支援団体同士(横のつながり)の「知恵の交換」を行う。 | 通年 | オンライン | 3人 | ・学校外で学ぶ子(不登校・ホームスクーラー)の保護者 ・フリースクールスタッフや不登校親の会の運営者 | 296人(2024年3月時点) |
| オンライン講座(一般向け) | 「専門講師による知識の注入」部分を担当 | 年間14回 | オンライン | 7人 | ・学校外で学ぶこの保護者 ・学校外の学びの場や親の会の運営者 | 延べ2500人 |
| オンライン講座(支援者向け) | 上記のより支援者向けに特化した内容 | 年間6回 | オンライン | 7人 | ・学校外の学びの場や親の会の運営者 | 延べ203人 |
| 保護者サロン | とまり木オンラインサロン内の保護者専用サロン／保護者のためのおしゃべり会開催／サロン内で今週の話題投稿 | おしゃべり会：毎月2回。年間24回。サロン投稿「今週の話題」：毎週1回。年間約50回 | オンライン | 3人 | ・学校外で学ぶ子どもの保護者 | 延べ248人 |
| 支援者サロン運営 | とまり木オンラインサロン内の支援者専用サ | 月1回。年 | オンライン | 3人 | ・学校外の学びの場や親の会の運営者 | 延べ97人 |

| | | | | | | |
|-------------------------|--|------------------|-----------------------|-----|-----------------------------------|------------------------------------|
| | ロン／毎月1回 平日夜に交流会「スナックミチシルベ」開催 | 間12回。 | | | | |
| 伴走支援事業 | 不登校の子と保護者を支える居場所運営者の為の研修サイトとプログラム開発、及び地域ネットワーク構築事業 | 2023年4月～2024年3月末 | 栃木県、鳥取県、埼玉県、岩手県、オンライン | 7名 | ・フリースクール等運営者、スタッフ、保護者 | 延べ105名 |
| 自主企画 | 「手芸部」 「しゃべりTIMEとことこ」 「シングルママ・パパ オンラインおしゃべり会」 「ぼちぼち・ちちの会」 「フリースクール／オルタナティブスクールスタッフ交流会」 「みんなのアート展」 「高校進学についてのおしゃべり会」 | 9企画・月1回または不定期開催 | オンライン | 12人 | ・学校外で学ぶ子の保護者 ・学校外の学びの場や親の会の運営者 | 延べ286人 合計60回 |
| 事業名 (定款に記載した事業) | | | | | | |
| イ「子ども向けオンライン講座やワークショップ」 | | | | | | |
| 事業費の金額【 315 】千円 | | | | | | |
| フリーバードキッズ | チャットツールslackを利用して家庭で取り組んでいる活動を写真や動画、文章で投稿して交流する | 通年 | オンライン | 6人 | ・学校外で学ぶ子どもとその保護者 | 会員数 15 家庭 延べ 70人 (zoomの会に参加した数) |
| こども哲学カフェ | テレビ会議システムzoomを利用して双方向型の、非認知能力を育むオンライン授業を行う。哲学対話を通して多様性への寛容さや自己表現、相互理解などを学ぶ。 | 月1回。年間12回。 | オンライン | 2人 | ・学校外で学ぶ子ども | 延べ26人 |

